

TAKAYA URAKAWA & MICHIKO TANAKA CHAMBER MUSIC CONCERT SERIES VOL.6

浦川宜也 & 田中美千子 室内楽シリーズ 6

ピアノトリオの夕べ



Program

モーツァルト:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ハ長調 K.296
W.A.Mozart : Sonate für Klavier und Violine C-Dur K.296

モーツァルト:ピアノトリオ 変ロ長調 K.502
W.A.Mozart : Klaviertrio B-Dur K.502

チャイコフスキー:ピアノトリオ イ短調 Op.50「偉大な芸術家の思い出」
P.I.Tchaikovsky : Trio für Klavier, Violine und Violoncello a-moll Op.50

Guest

渡邊 辰紀

Tatsuki Watanabe
Violoncello

2019. 5月24日《金》19:00 開演 〈18:30 開場〉
台東区生涯学習センター ミレニアムホール

全自由席 一般 ¥3,500 学生 ¥2,000 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

【前売】ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552・チケットぴあ <http://pia/t/>・Web チケットの王様 <http://www.soleilmusic.com>

主催■ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552 <http://www.soleilmusic.com>

TAKAYA URAKAWA & MICHIKO TANAKA CHAMBER MUSIC CONCERT SERIES VOL.6

渡邊 辰紀 (チェロ) Guest

5歳より才能教育研究会にてヴァイオリンを始める。その後チェロの存在を知り、腰掛けて練習できるという理由により転向。自分のお年玉をはたいて当時15,000円の1/2サイズのチェロを購入。日本人で最初のパブロ・カザルスの子弟、故佐藤良雄氏のもとで手ほどきを受け、以来チェロの魅力にとりつかれ、まっしぐらにチェリストへの道を突き進む。そして血のにじむような努力の末東京藝術大学附属高校に入学し、ストレートで東京藝術大学に進学する。

在学中は優秀な学生に贈られる「安宅賞」を受賞したり、日本音楽コンクールにも入賞する等華々しい成績を修めるが、驕ることなく2年間も修学期間を延長し、それでもあきらまずどこか外国で勉強してみたいと漠然と考えていたところへ紹介して下さる方があらわれ、渡りに舟とばかりにドイツ行きを決行。

留学はしたものの最初はヨーロッパのレベルの高さに圧倒され悶々とした日々を送るが、ヒツァカ音楽祭で初演した新進気鋭の作曲家トビアス・PM・シュナイトのクラリネットとチェロとピアノのための[Cascando II]で「観客賞」を受賞。そのメンバーで[Trio Cascando]を結成し、バイエルン放送、ドイツ放送等のFMに出演の他、ソロコンサートやオーケストラとの共演等、着々とキャリアを積み重ねていく。そして6年間の研鑽の締めくりに、ドイツ国家演奏家試験でフリードリッヒ・グルダのチェロ協奏曲を演奏し、特別賞付きで合格。同時に北西ドイツフィルハーモニーにソロ・チェリストとして入団。10年間在籍し、「ドイツ国家室内楽演奏家」の称号を得る。

2006年夏、16年間のドイツ生活にピリオドを打ち完全帰国。東京フィルハーモニーに首席チェリストとして入団。

オーケストラはもとより、ソロ、室内楽、そして内外のジャズフェスティバルで井野信義、高瀬アキ、山下洋輔、ニルス・ペデルセン等超一流ジャズミュージシャン達と共演する等多彩な演奏活動は高く評価されている。

浦川 宜也 (ヴァイオリン)

1940年東京生まれ。就学前、両親より絶対音感教育を授けられる。幼時に鈴木慎一よりヴァイオリンの手ほどきを受け、6歳で小野アナ女史の門をたたき10年間指導を受ける。9歳で学生音楽コンクール第1位、11歳で初リサイタル、13歳で第22回音楽コンクール入賞、近衛秀麿氏に認められ、チャイコフスキーの協奏曲でデビュー。以後、ABC交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団と共演。15歳の時、小林道夫氏のピアノで第2回リサイタルを開く。東京藝術大学附属高校で井上武雄氏、J. イスナール女史に師事。1959年、東京藝術大学入学の年に西ドイツ政府DAAD奨学生として渡独。西ベルリン音大で短期間G. タッシュナー氏に師事後、M. シュヴァルベ氏の門に入り、約2年間充実した指導を受ける。1961年秋バイエルン州の奨学金を得てミュンヘン国立音大に入学し、W. シュトロス教授の許で高度な技術的修練と同時にドイツ音楽の本質への洞察の方法を学ぶ。1964年同音大を首席で卒業後、直ちに中部プファルツ交響楽団の第1コンサートマスターに、翌1965年春、大指揮者J. カイルベルト氏に認められ、バンベルク交響楽団第1コンサートマスターに就任。1968年、同団の訪日に同行し話題となる。1969年まで同職を務める傍ら、同団室内楽グループのリーダーとしても活躍。1970年代にはソリストとして独立し、西ドイツ、オランダ、スイス、ポーランド、チェコ等の主要オーケストラと協演の他、西ヨーロッパ各地でリサイタルを行う。1974年、渡欧後日本で初リサイタル

ルを機に「ヨーロッパの伝統を受け継ぐ新しいタイプのヴァイオリニスト」として注目を集める。1981年に帰国。東京藝術大学助教授を経て、1984年より教授として教育活動と並行し、精力的にレコード、CD録音を行い、バルトーク無伴奏、4大協奏曲、ベートーヴェン、ブラームスのソナタ全曲、J. S. バッハと、モーツァルトのほぼ全ての作品の収録を成し遂げる。海外の活動は、名門のワシントン国会図書館シリーズでクライスラーのグアルネリを奏するなど、USA、オーストラリア、中国、シンガポール、欧州各地に及び、国際コンクール審査、内外のセミナー等にも招かれる。また、楽譜の校訂も手がけ、ベートーヴェン・ソナタ、バッハ無伴奏、モーツァルト協奏曲他多数に及ぶ。社会的活動としては、1990年から2000年まで12回に亘り札幌ジュニアチェロコンクールを主宰。2008年、東京藝術大学を定年退任。現在、同大学名誉教授、また2016年まで東京音楽大学大学院担当客員教授として指導にあたる。数年来、《小野アナ女史記念会》会長の他、《NPO法人文化日独コミュニティ》の理事長を務める。2017年秋、ドイツ連邦共和国バイエルン州ミュンヘン市に於いて、若い芸術家の支援を目的とした公益財団法人「浦川宜也財団」(www.urakawa-foundation.com/request)を設立、その理事長に就任する。

田中美千子 (ピアノ)

東京藝術大学附属音楽高校、東京藝術大学を経て東京藝術大学大学院修士課程修了。

ドレスデン音楽大学大学院修了。ドイツ国家演奏家資格取得。その後ドレスデン音楽大学非常勤講師を務める。ドレスデン国立歌劇場(ゼンパーオーバー)で大学オーケストラ演奏会のソリストを務め、モーツァルトのピアノ協奏曲を演奏。その他ドレスデン、マイセンにおいて数々のコンサートに出演。1995年マルクノイキルヒェン国際コンクールにおいて公式伴奏者を務め、最優秀伴奏者賞受賞。1996年帰国。

1997～2000年東京藝術大学大学院室内楽科演奏助手。2001～2003年東京藝術大学大学院室内楽科非常勤講師。

1995年、東京および名古屋にてデビューリサイタル開催。以来現在まで定期的にリサイタルを開催しているほか、国内外で様々なコンサートに出演している。2006年より「浦川宜也&田中美千子 室内楽シリーズ」を定期的に開催。そのほか、これまでプラハ・アポロン弦楽四重奏団、ターリヒ弦楽四重奏団、ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団、木管五重奏団「クインテット・ウィーン」、アドリアン・コックス、ラルフ・デーリング、浦川宜也など国内外の多くの演奏家と共演。現在ソロ、室内楽の両分野で幅広く活動を行っている。

生涯学習センターまでの案内図

